

平成 26 年 10 月 1 日

## 平成 26 年度 NPO 法人・グラウンドワーク三島

### 「英国スタディーツアー」の概要

2014 年 9 月 2 日（火）から 11 日（木）まで、グラウンドワーク三島の主催による、「英国スタディーツアー」を実施しました。今回のツアーは、英国のグラウンドワーク（以下 GW）活動やイギリスの社会的企業が取り組む、多様な社会的・公益的なプロジェクトの先進性や革新性を学ぶための現地視察と具体的なボランティア活動への参加・体験などを通して、課題を抱えた生活現場において課題解決力やコミュニケーション力、実践力を学習・理解するとともに、国際的な人的交流とグローバルな見識を高めることを目的としています。

今回のツアーには、立教大学セカンドステージ大学を中心とした社会人7名、都留文科大学生を中心とした大学生18名・計25名が集まり過去最高の参加者数になりました。

1	9月2日(火)	(11:20 成田空港発 → 15:00 ヒースロー空港着) ホテルロビーにて集合・打ち合わせ	ロンドン泊
2	9月3日(水)	終日：グラウンドワーク・ロンドン…実践地視察	ロンドン泊
3	9月4日(木)	午前：TCV…ボランティア体験 午後：ロンドン自由視察	ロンドン泊
4	9月5日(金)	午前：バーミンガムへ向け出発 午後：グラウンドワーク UK 視察	バーミンガム泊
5	9月6日(土)	午前：ストラフォード・アボン・エイヴォン視察 午後：ボート・オン・ザ・ウォーター視察	コッツウォルズ泊
6	9月7日(日)	午前：バイブリー散策 午後：オックスフォード視察	ロンドン泊
7	9月8日(月)	午前：バイクワークス視察 午後：研修のまとめと参加者ワークショップ	ロンドン泊
8	9月9日(火)	午前：湿地センター視察 午後：各人視察	ロンドン泊
9	9月10日(水)	解散 (参考：13:30 ヒースロー空港発 → 翌9月11日(木) 9:05 成田空港着)	

ツアー団長 グラウンドワーク三島専務理事・都留文科大教授 渡辺豊博

## 9月3日（木）

GW ロンドンの実践地である「キャロライン住宅団地」「チェースマン住宅団地」を訪れ、GW ロンドンの職員より実践地の案内と概要説明をしていただきました。

GW ロンドンは、現在約 500 のプロジェクトを運営しており、ロンドン市内の住宅地でのコミュニティーの再生や生活環境を向上させることを目的に活動しています。



キャロライン住宅団地では、2008 年から住民の方々と一緒に遊び場プロジェクトが実施されています。以前は、自治体関係者が主体となり各種事業が実施されていましたが、より以上に住民の意見を反映させるために、住民自身がアイデアやプロジェクトを提案し、公園づくりに積極的に参加する新たな地域コミュニティーづくりのための独自のプログラムが実施されていました。

参加者からは、「より多くの住民や失業者を巻き込む方法」「プロジェクトの効果・ねらい」「自治体とのつながり」「GWロンドンの役割と今後の課題」「地域住民の意識変化」などについて、日本でのケースや事例を踏まえて活発な質疑応答がありました。

午後は、公園の一つ一つの遊具、地形、設備などを観察して、「アクセス」「安全」「持続」等のテーマについてのディスカッションやワークショップを行い、具体的にどんな形が適切で安全な物づくりになるのかを議論・確認しました。



何気なく使っている公園や遊具も、すべての世代の方々のために使いやすく、安全な場所・施設にするためには、どのような仕様やデザインにしたらいいのか、一つ一つの側面・要素から総合的な判断・評価を行うと多様な課題が見えてきます。



公園内のゴミ拾い後の集合写真。世界のどこでもゴミ拾いは必要不可欠

## 9月4日（金）

The Conservation Volunteer というボランティア活動を中心とした NGO が行っている「グリーンジムプロジェクト」(Green Gym Project <http://www.tcv.org.uk/greengym>) に参加しました。

グリーンジムとは、地域住民の方々と一緒に、環境を改善しつつ、同時に健康も向上させようというコンセプトのもとに活動している「環境保全プロジェクト」です。障害者やひきこもり、高齢者などの社会的弱者を対象にしており、イギリス全体では 100 カ所のプロジェクトがありロンドン市内では、10 のプロジェクトが実施されています。



今回の活動体験の現場は、広大な面積を持ち、ロンドン動物園と隣接している「Regent park」です。地域住民やボランティアメンバーの皆さんと一緒に、公園に繁茂している外来種「エルム」の木を根元から切り、在来種を中心とした原自然の植生を人為的に作るための活動を行いました。また、隣接するロンドン動物園とも連携してお

り、集めたエルムの葉はコンポストに綺麗に詰めて、発酵させた後、動物たちの餌として使用します。



参加した学生の多くは、グラウンドワーク三島において、松毛川などでの植林・伐採活動、清掃などの環境改善活動などを体験しており、作業は段取りよく効率的に進みました。最初は相互にぎこちなさがありましたが、イギリスの参加者とは、楽しく英語で会話をしながら、のこぎりを持って、歩道沿いの傾斜面に茂っている木々の伐採作業とともに汗を流しました。

リーダーは2人とも女性で、活動前のストレッチ体操や作業の段取りの説明、伐採時での注意事項など、ボランティアを上手にまとめ、使うボランティアコーディネーターとしての役割・職種を的確に果たしていました。また、休憩時のコーヒープレイクでは、参加者同士の自己紹介を行うなど、日本人を含めた、参加者相互のコミュニケーションや情報交換、近況報告などの機会を意識的に作っていました。

参加した学生たちは、イギリスで行われている具体的なボランティア活動を体験して、ボランティアコーディネーターとして必要とされる資質や専門性を学ぶとともに、グリーンジョブの社会的影響力や効果などについて、現場で会ったイギリス人との会話を通して、より具体的・現実的に理解することができたようです。

## 9月5日（土）

午前中は、ロンドンからバーミンガムに大型バスで移動しました。無料の高速道路をひたすら北上しましたが、周辺の景色は、延々と田園地帯が広がり、イギリス国土の広さとゆったりとした田舎の雰囲気を楽しめることができました。

車内では、渡辺専務理事の司会により参加者相互の自己紹介があり、社会人からは人生の先輩としての励ましのメッセージや企業人としての生き方や心構えなどについて有益な人生のアドバイスを受け、恒例の渡辺専務理事の英国研修ワンマンショーを含

め、充実した2時間半を過ごしました。

午後は、今回のツアーの目玉でもある「グラウンドワーク UK」の事務所を訪問しました。事務所は自社ビルであり、バーミンガム市内を縦横に網の目のように流れる運河沿いにありました。これらの歴史的な運河は、かつては壊され、埋められ、ゴミ捨て場化していました。

(左) 衰退時のバーミンガム運河



(右) 再生復活時のバーミンガム運河



しかし、新たなまちづくりの手法として、これらの歴史的な運河と街並み景観、レンガ造りの建物群を再生・復活することにより、街を川側に向けるまちづくりが発想・実行されました。運河は掘削・補修され、レンガの建物は外側の景観は昔のように残し、マンションやオフィス、レストランなどにリフォームされました。



今では、運河が街の中心となり、商業施設やオフィス、飲食店などが集まり、素敵な水辺空間が形成されています。また、若者を中心に多様な人々がバーミンガムに集まり、「バーミンガムの奇跡」と呼ばれる先進的な街づくりの現場を実感するとともに、水辺の雰囲気運河沿いを散策しながら満喫・学習しました。

GW 事務所にて、グラハム所長より、GW の概要・活動をまとめたプレゼンテーション、参加者との質疑応答が行われました。



GW UK では、現在 2020 年まで、「雇用」「健康」「自然資源」「環境&コミュニティー」のより良い改善が掲げられています。今後は、「若者」をキーワードに若者がより住みやすい地域にしていく取り組みに力を入れていくそうです。

(<http://www.groundwork.org.uk/young-people-friendly-neighbourhoods>)

具体的には、スタッフが学校の登校拒否の学生にカウンセリングをしていくプロジェクトやグリーンチーム

(<http://www.groundwork.org.uk/Sites/south/pages/green-team-south>) という環境改善活動などがあります。それらのプロジェクトを通じ、若者がチームワーク、マネジメントスキル、事務処理能力等を養い、大学卒業と同時に実践的な経験を得ることができる取り組みを学びました。

後半の質疑応答では、「NPO の効果的な運営方法」「参加学生の具体的な就職活動への取り組み」「雇用困難者へのトレーニング方法」など、学生たちからの熱心な質問が飛び交い、グラハム氏も、彼らの問題意識と感心度の高さに驚いていました。日頃から、渡辺教授のグラウンドワーク三島での活動体験が、質問の質の高さに反映しているのだと思いました。

## 9月6日（日）

午前は、ストラフォード・アポン・エイヴォン、午後はボート・オン・ザ・ウォーターを散策しました。ストラフォード・アポン・エイヴォンは、シェイクスピアの生まれ育った街並み、ボート・オン・ザ・ウォーターでは、町の中の川のせせらぎなど、ロンドンとは、また違ったイギリスの歴史的な原風景を楽しみました。



ストラフォード・アポン・エイヴオンにて



ボート・オン・ザ・ウォーターの風景



## 9月7日（月）

元 GW Oldham&Rochdale 所長 ロビン・ヘンショウご夫妻に、バイブリーを案内していただきました。ロビン氏からは、イギリスナショナルトラストによる地域・環境マネジメントの仕組みやコッツウォルズにおけるの景観保護・地域経済振興策、自然環境保護策などについての説明をお聞きしました。



ここバイブリーは、14世紀頃から毛織物の生産地として繁栄し、17世紀には住居兼毛織物の作業場として改築された400年前の古き良き時代の街並みが、昔のまま奇跡的に現存しています。現在では、イギリスナショナルトラストの保護区内にあるため、歴史的な建物や住居の僅かな改造・改修に対して、地域住民や自治体の許可を申請し、バイブリーの景観や環境が保持されています。

日本においては、全国各地に限界集落が拡大し、地域の高齢化や経済的な衰退とあいまり、歴史的・自然的な地域資源が破壊・消滅しています。イギリスナショナルトラストは、コッツウォルズ地域全体を経済的に管理運営することにより、居住者の生活を維持し、歴史的な景観・自然保護を両立、マネジメントすることにより、地域の自立を支える画期的・持続可能な仕組みを創り上げています。イギリスでは、100年前の建物は1億円といわれ、古い建物は不動産価値的に評価しても1億円の価値があるといわれています。日本では、かび臭い邪魔者扱いで、多くの歴史的な建物が廃屋化しています。古き良き建物を現代に生かすことが、「環境創造・価値創造」といえます。バイブリーから学ぶべき、新たな街づくりの手法を参加者は理解できたようです。



窓の改造をするために許可願を掲示する住宅



9月8日（火）

ロンドンにある社会的企業である、「Bikeworks」を視察しました。



共同創設者のジム氏より、Bikeworks の理念や活動の説明を聞き、参加者との質疑応答が行われました。Bikeworks は、2006年に設立され、リサイクルバイクのショップ経営とともに、服役者や障害者などへの「雇用トレーニング」を行っている社会的企業です。

トレーニングを受けたいという服役者には、必ず、「Are you ready?」（タバコや飲酒などを止める覚悟はあるのか？）と確認し、同意した人からカウンセリングを始め、参加者・雇用者としての向き不向きを検証した上で、各人の特性にあわせた個別雇用プログラム（販売員、修理、事務などの専門性を学習）が提供・実施されています。



ジム氏のお話には、「その人の過去を見るのではなく今が大切である」「どんな人も受け入れトレーニングを行う」「どんな人でも社会で自立できる」など、個別の特性・問題などへの寛大な心を思わせる言葉・対応姿勢を学びました。自転車と社会福祉を組み合わせた革新的な取り組みと、ジム氏のパッションに感化され、参加者からも多くの熱い質問が飛び交いました。

今後は、障害者向けのサービスの発展を中心に、ビジネスとチャリティーを組み合わせ

せたダイナミックな収益事業を生み出し続けることに挑戦していきたいとおっしゃっていました。

午後は、渡辺専務理事や今回のコーディネーターである小山善彦先生と参加者による研修のまとめワークショップが行われました。小山先生からは、イギリスの社会的企業についての講義の後、参加者が研修を通して感じたことや日本に帰ってからどのように活かしていけるのかなど、熱い議論が交わされました。

ワークショップでは、今後、銀行に就職する学生からは、英国の社会的企業が担っている社会的役割に感銘を受けたことともに、「目の先のお金のことを優先するのではなく、どのような心根を持ち、地域や弱者に貢献できるのか、地域全体の将来や現実の課題を考えられる銀行員になりたい」と頼もしい抱負も述べられていました。

## 9月9日（水）

午前中は、今回の英国研修の最後の視察先となるロンドン「湿地センター」を訪問しました。NPOの職員の案内により、湿地センターの歴史や機能、現状、効果、課題などを聞き取り、センター内の現場見学を行いました。



湿地センターは、下水道設備に伴う地下パイプにより不要になった水路を貯水池にし、様々な野生動物が生息できるように作られた都市部で初の湿地センターです。ここは、元ロンドン市の上水道を溜めるための「貯水池」であり、今から、20年ほど前に使用目的が無くなり埋めてしまうことになっていました。しかし、湿地センターと不動産会社が、その場所の有益性や自然度に注目し、環境保全と経済振興を併せ持った開発計画を立案して、土地をロンドン市から1ポンドで借りるとともに、土地の一部を埋め立て、住宅開発を行い、その売上金の一部で湿地センターを建設したのです。

今では、この地域は人気の住宅街となり、ただの貯水池が自然度の高いサンクチャリー、環境教育園、雇用の場、憩いの場所、ボランティアセンターの基地になっています。



「貯水池」時の航空写真



現在の航空写真

日本においても、NPO や企業が潜在的に内在している多様な特性、機能、専門性、企業性などを活かした公共施設の高度利用や活用が求められています。例えば、除草剤を使用する場合は、雑草一本一本に、除草剤を塗って時間をかけ枯死させたり、範囲を一気に草刈するのではなく、あえて放置することによる生態系の変化についての実証実験を行うなど、自然との共生を考えた維持管理づくりが実施されています。

また、田舎ではなく、あえて都心に広大な自然環境施設を作ることによって、都市部でも住民が水辺自然環境を体験しながら、親しみをもって散策できるように造られています。そのため、センター内には、観察小屋や展望台など、湿地センターの水辺を見渡せる施設が沢山、設置されています。季節ごとに多種多様な鳥類が 100 種類以上も飛来することから、バードウォッチングに興味のあるロンドン市民が多く観察に来ていました。



9月10日・11日（木）

日本に帰国

最後になりますが、今回の英国研修で通訳・コーディネーターをしていただいた小山善彦先生、バイブリーで貴重なお話を聞かせていただいた ロビ・ンヘンショーご夫妻、各視察先の関係機関の方々、ご協力、誠にありがとうございました。

そして、参加者の皆様も、ご参加いただき、ありがとうございました。今後は、今回の研修を通して学び、感じ、刺激を受けた多様な事柄・情報をいかに自分のものにして、日常生活の中で社会に還元していくかの取り組みが求められています。

年々、反響が大きく、参加者も増加している、グラウンドワーク三島が主催する「英国研修」ですが、**来年の3月上旬に、次回の「英国スタディーツアー」を計画**しております。

興味・参加の意向がある方は、グラウンドワーク三島の事務局宛て（担当：鈴木・修平・山本）に、お問い合わせください。皆様の参加を、お待ちしております。